

杏林大学医学部付属病院

中村 泰啓 (なかむら やすひろ) PHC 株式会社 デリカート営業所 所長

～取材先～

齋藤副院長 (杏林大学医学部付属病院)

塚田副部長 (杏林大学医学部付属病院 栄養部)

要約 ニュークックチルシステムへの関心度は年々高まっている。PHC 株式会社 (旧 パナソニックヘルスケア株式会社) は純国産の「再加熱カート」にこだわり、熱風式においては、国産の再加熱カートを初めて商品化した。また、48人分の食事を1人で楽に運べるパワーアシストが付いた再加熱カートは業界内で唯一であり、省人化に寄与する。当社が開発した、国産第一号の再加熱カートを導入した「杏林大学医学部付属病院」の事例をご紹介します。

1. はじめに

東京都三鷹市にある「杏林大学医学部付属病院」は多摩地域唯一の特定機能病院で、病床数1,153床は同地域最多で、東京都災害拠点病院にも認定されている。

平成19年8月には免震構造の外科病棟新築に伴い、オール電化厨房を新設。それと同時に、国内の病院でいち早くニュークックチルシステムを採用した。

以前のクックサーブ方式に比べ、より安心・安全な病院食の提供が実現できただけでなく、患者様の満足度が大きく高まり、厨房スタッフの負担軽減にもつながったという。

ニュークックチルシステムの稼働に伴い、同病院ではPHC株式会社製の再加熱カート「再加熱配膳車デリカート」を導入。その詳細についてレポートする。



病院外観

2. 施設概要

名称	杏林大学医学部付属病院
所在地	東京都三鷹市新川 6-20-2
敷地面積	60,028.75 m ²
延床面積	17,533.53 m ² (外科病棟)
構造規模	RC造
竣工	平成19年5月31日
設計・施工	建築 - (株)竹中工務店 設備 - 三機工業(株)

3. 給食概要

総食数	699,717 食
内訳	一般食 399,793 食 治療食 299,924 食 (非加算特別食も含む)

4. ニュークックチルシステム導入の背景

同病院では、東京都災害拠点病院という役割を果たすため、新厨房の熱源は復旧が早い電気を採用し、オール電化厨房とした。また、万が一の大規模災害が発生し、送電がストップされた場合でも、加熱調理の機器は非常用電源に切り替えられ、通常の調理が行えるよう配慮されている。

オール電化厨房の長所は、ガスに比べて排熱が少な